『学生のための法医学』改訂5版

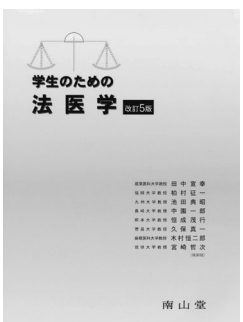
久保真一　共著
医学部・医学科・教授（法医学分野）

「法医学とは医学的解明助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学である。」近年、犯罪の増加、社会の耳目を集める事件が多くなり、法医学という分野が、報道で取り上げられる機会が増えているように思われます。また、このような背景のもと、法医学を扱ったテレビ・ドラマも放送されるようになり、法医学に興味をもつ医学生や受験生が増えているように思われます。

一方、社会の変化にともない、個人の人権意識の変化、死に対する意識も変化しており、この点においても法医学の責任も大きくなってきているように思われます。例えば、死後診察ともいわれる死体検案は、多くの場合一般臨床医の先生方によって行われていますが、その際にも、より専門的な知識が求められます。

本書は、改訂を機会に、医学の進歩や社会情勢にあわせて知見の更新・充実を図るとともに、図表を多く掲載しより理解しやすいように工夫されています。また、従来の項目に加え、「医と法」、「医事紛争」、「法医学と現代の社会問題」の項目を設け新たな内容も追加してあります。いまから法医学を学ぶ医学生だけでなく、日ごろ臨床診療に従事するなかで死体検案に携われている臨床医の先生方、警察官の方々にも充分利用していただけるように読み易くコンパクトながら、必要事項を網羅しています。

本書は、私自身が医学生時代、その初版を教科書として使用していたものであり、改訂にあたり執筆に参加することになり感慨深いものがあります。その意味でも次代を担う医学生、臨床医、警察官などの皆さんのお役にたてる教科書となることを期待しています。



2002年3月20日発行
（南山堂）
定価5,300円＋税